

基本的な考え方

本地域の用地活用について、「産業の強化、雇用の創出、人材育成」をテーマとして、県内外の企業やスタートアップ、大学・学校、有識者等からヒアリング。以下のニーズが判明。

学生（教育機関）

- 県内の大学や高専、高校等で、学生の居住拠点に高いニーズ。既存の寮などでは賄いきれず、わざわざ県外から通学するケースも。
- 近年、学生の間では、他の大学、企業、外国人留学生など、多様なバックグラウンドを持つ人々と交流して、成長していきたいとのニーズ。

企業・スタートアップ

- （県内外の企業）人材確保や若者ニーズの把握のため、学生と日常的に交流することを望んでいるが、接点がほとんどない。
- （県外の企業やスタートアップ）学生と日常的に交流できる場があれば、奈良に立地する、大きなインセンティブになる。



こうした学生や企業ニーズを踏まえ、
「学生×企業」をテーマとした、新しい用地活用の方針を決定

テーマ：次世代を担う学生 × 企業のまち MIYAKE

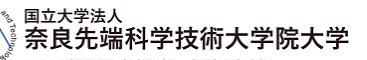
学生

×

企業

● 若者が、生活しながら成長できるヤング・イノベーション・レジデンス -Young Innovation Residence-

- ・ 県内の大学院、大学、高専、高校の学生、留学生、社会人が、世代や背景・言語を超えた交流ができる、**全く新しいタイプ**の学生寮
- ・ 3つの機能（**居住**、**企業や地域との学び・交流**、**イノベーション**）を有し、県内大学や高専、企業・スタートアップとの連携で、学生と企業が**生活しながら成長**。多様な学び・交流を創出

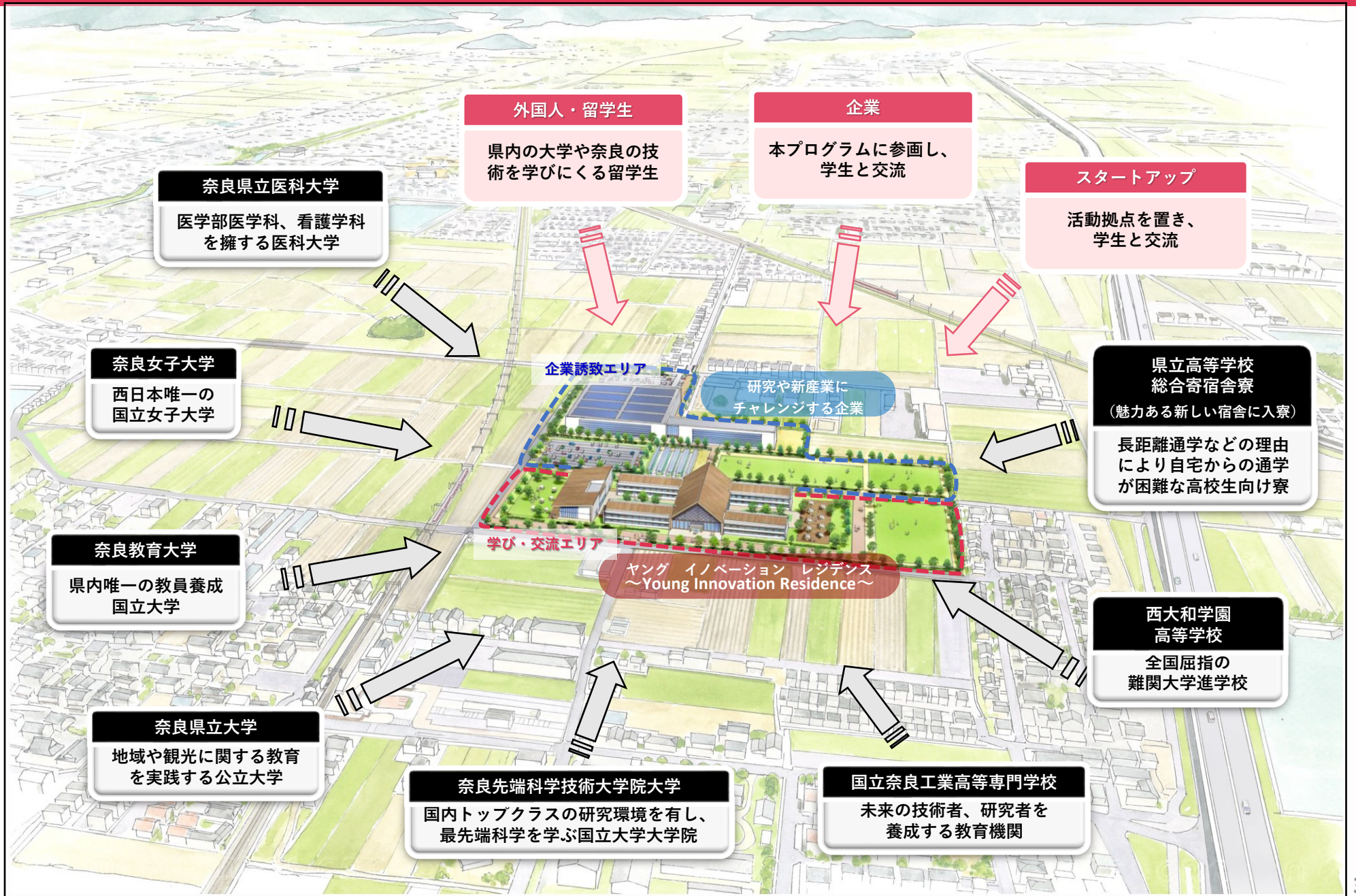


● まちのコンセプトに賛同する、研究や新産業にチャレンジする企業の誘致

- ・ 地域課題や先鋭的な技術を研究する企業
- ・ 学び・交流拠点において、学生との交流を積極的に図る企業



まちのイメージ



※国立・公立の大学。周辺に立地し、寮を併設する高等学校。

ヤング・イノベーション・レジデンス：学生が生活しながら 企業・地域と交わり・学ぶ

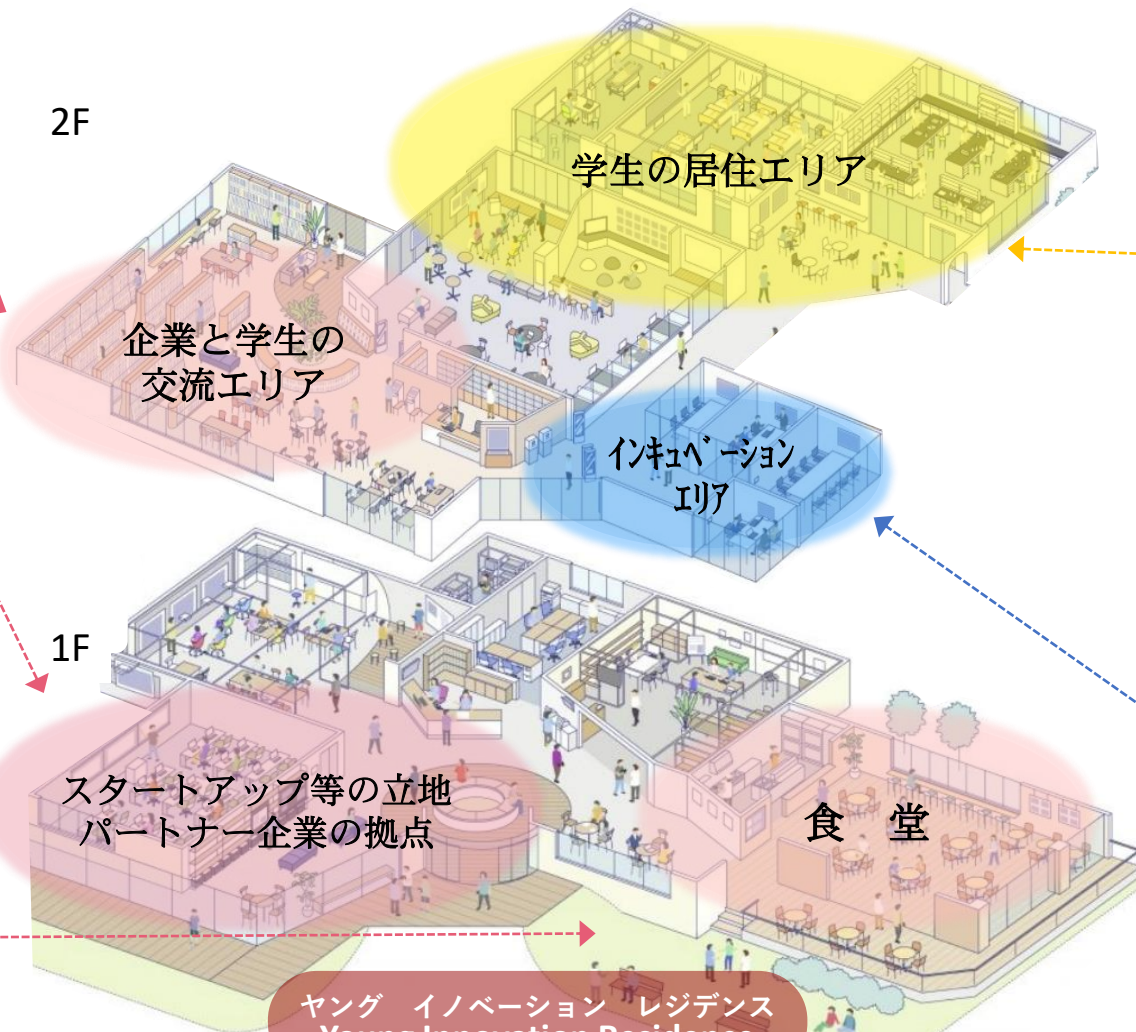
- ✓ “単なる生活拠点”ではなく、世代や背景・言語を越えた交流、先鋭的な企業やスタートアップからの刺激を日常的に経験することで、社会人・起業家として社会に羽ばたく力を養う“Residence”
- ✓ 在学中から企業・地域と繋がることで、この地での起業・就業の具現化に導く“Residence”

機能2

企業 -学び・交流-

企業と学生が協働し、
多様な学びのプログラム
や交流イベントを開催

2F



機能1

居住

高校生、高専生、大学生、
留学生、社会人等が
交流・共同生活する、
若者のすまい
(Residence)

機能3

イノベーション

スタートアップが
学生寮の中に立地し、
若手起業家と学生が
日常的に交流、
新たな事業を創出

機能2

地域 -学び・交流-

- ・若者と住民が、地域課題を一緒に考えるプログラムの開催
- ・地産地消の食堂を併設。若者の食を地域で支える

1F

ヤング イノベーション レジデンス
~Young Innovation Residence~

今後の進め方

- 本日お示した基本的な方針に従い、
 - ▶若者、企業、地元・関係者、専門家からヤング イノベーションレジデンスに係る提案を聴取しながら基本設計を検討
 - ▶計画策定、埋蔵文化財発掘調査等の実施
 - ▶地元・関係者に対し丁寧に説明
 - ▶計画をもとに、県と町が速やかに協定を締結